

2017年3月期 決算説明会

1. 当期決算の概要(連結)
2. 次期業績見通し
3. 前中期経営計画の総括
4. 中期経営計画 TRANSFORM 2020

2017年5月16日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<http://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

当期決算の概要(連結)

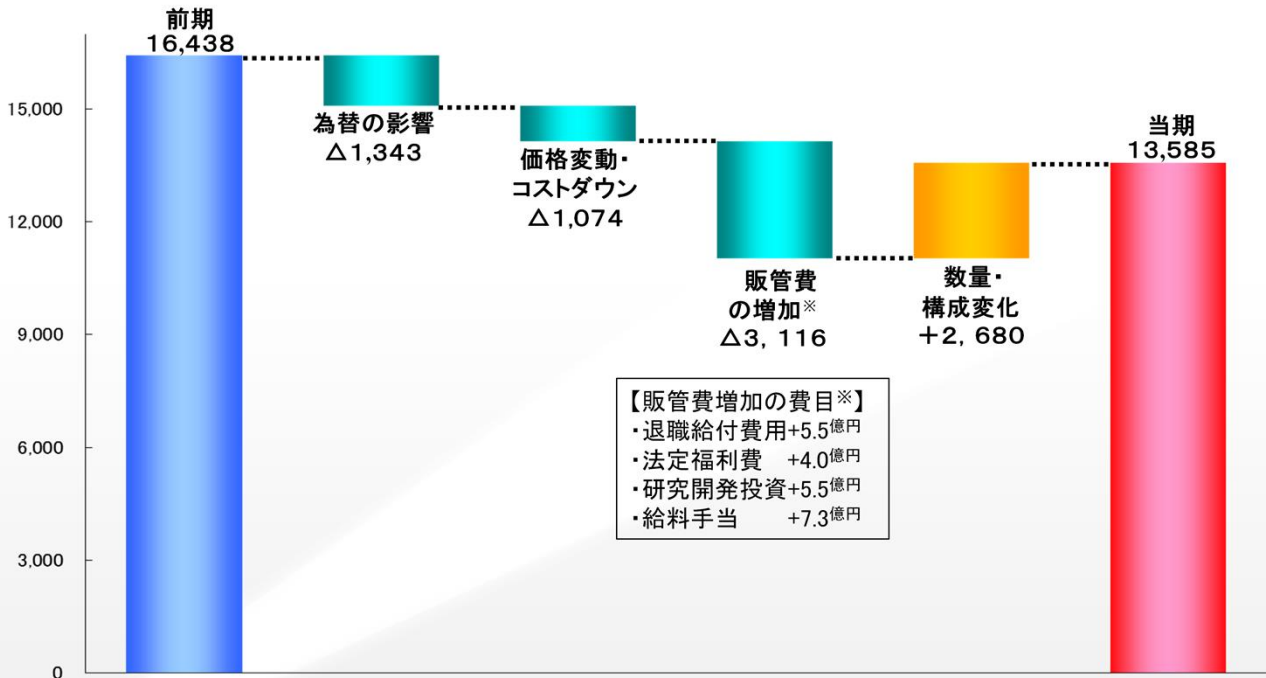
1) 当期の決算概要

	前期 2016/3	当期 2017/3					対前期増減率 (%)
		期初予想	11月4日 修正予想	2月1日 修正予想	実績		
売上高	165,522	175,000	170,500	168,000	166,285		0.5
国内売上高	121,989	127,000	126,300	124,000	124,764		2.3
海外売上高	43,533	48,000	44,200	44,000	41,520	△ 4.6	← 為替影響除く: +6%
営業利益	16,438	17,500	17,000	15,500	13,585	△ 17.4	← 粗利率: 48.8%→47.6% 販管费率: 38.9%→39.4%
経常利益	16,116	17,500	16,000	16,000	14,053	△ 12.8	← 2016/3 2017/3 為替差損 為替差損 911百万円 → 254百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,516	11,500	10,700	10,300	9,149	△ 13.0	← 2017/3 投資有価証券売却益: 416百万円 投資有価証券評価損: 257百万円 事業所移転費用: 271百万円
平均レート	(2016/3)	(2017/3)	(2017/3)	(2017/3)	(2017/3)		
1 ドル	120.1円	109円	104円	109円	109.2円		
1 ユーロ	132.4円	123円	116円	119円	119.3円		

- 売上高は、0.5%増の1,662億円となりました。
- 国内売上高は私立病院・診療所市場が好調に推移し、2.3%増の1,247億円となりました。
- 海外売上高は円高の影響から、4.6%減の415億円となりました。現地通貨ベースでは、6%の増加となっています。
- 前回予想に対しては、国内は上回ったものの、海外において、米国の一部商談の期ずれや新興国での政情不安の影響を受け、全体で18億円下回りました。
- 営業利益は、粗利率の低下に加え販管費が増加したことから、17.4%減の135億円となりました。
- 経常利益は12.8%減の140億円、純利益は特別損益の計上もあり、13%減の91億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析

(単位: 百万円)



【販管費増加の費目※】

- ・退職給付費用+5.5億円
- ・法定福利費 +4.0億円
- ・研究開発投資+5.5億円
- ・給料手当 +7.3億円

※「販管費の増加」は為替の影響を除いた営業利益増減要因としての金額、
「販管費増加の費目」は円建ての販売費及び一般管理費のうち主な増加金額を表しています。

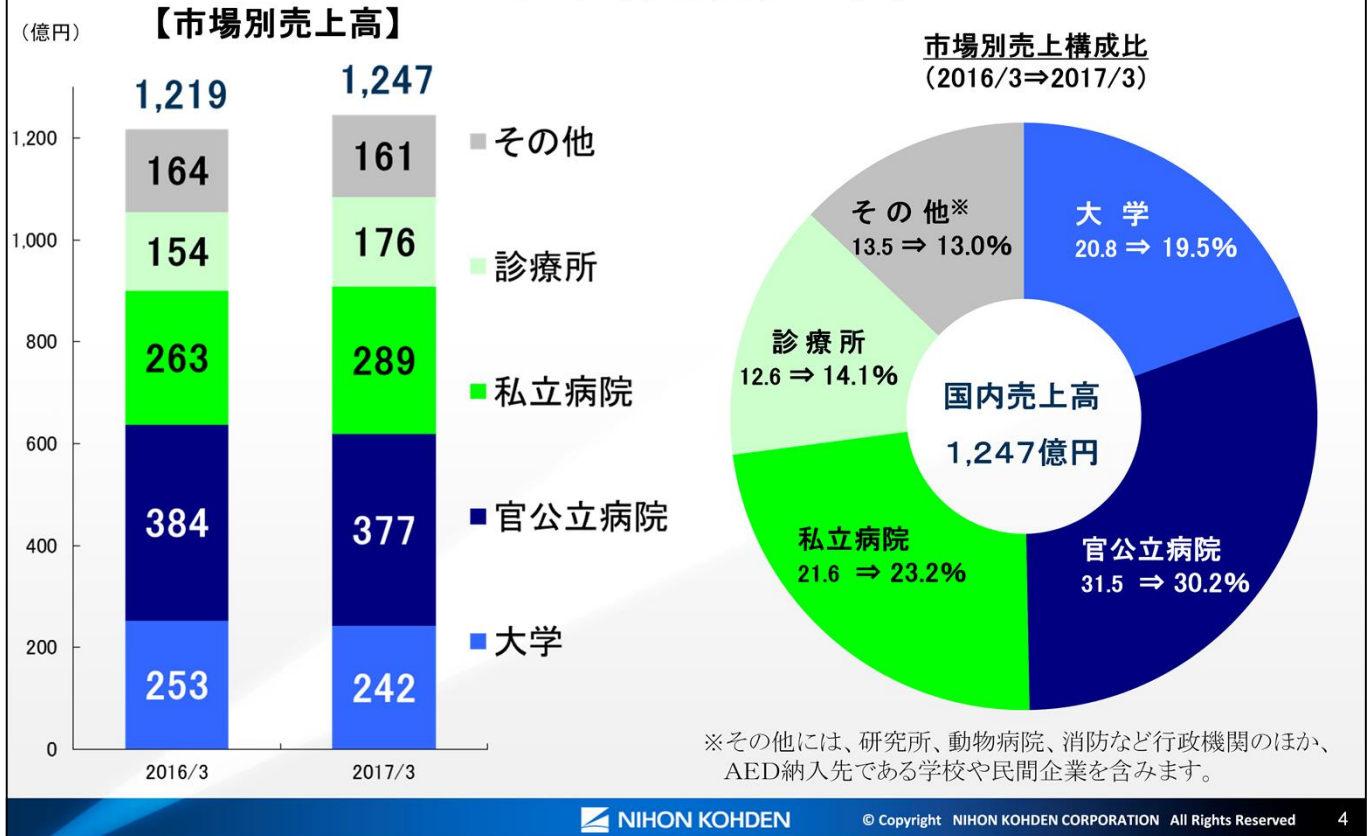
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

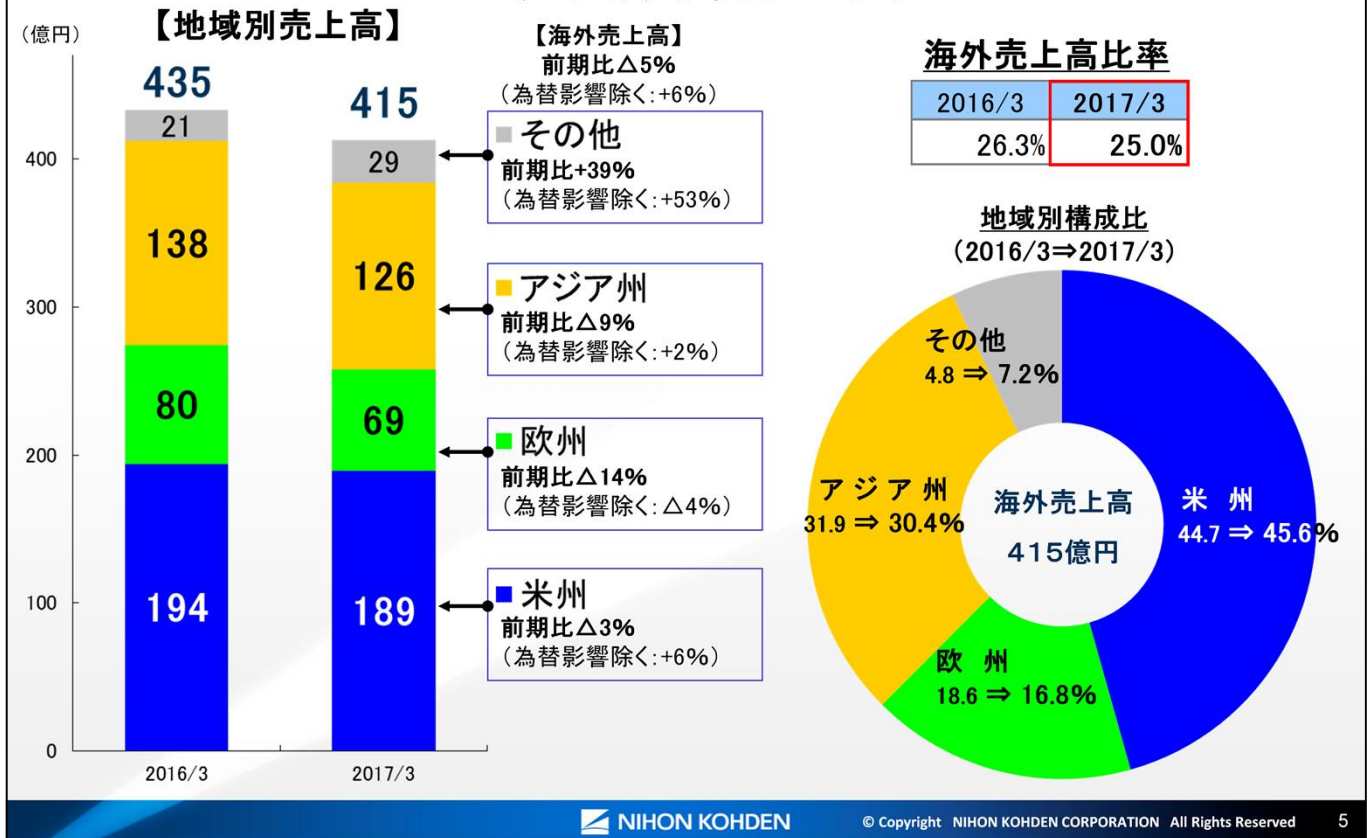
- 営業利益が、前期の164億円から135億円となった要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、円高が進んだことから、13億円のマイナス要因となりました。
- 価格変動・コストダウンにつきましては、コストダウンが売価の下落を吸収できず在庫の評価減も影響して、10億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、退職給付費用の増加や人員の増強、研究開発投資により、31億円のマイナス要因となりました。
- 数量・構成の変化につきましては、売上構成のマイナス影響はあったものの、数量増加により、26億円のプラス要因となりました。

3) 国内売上高



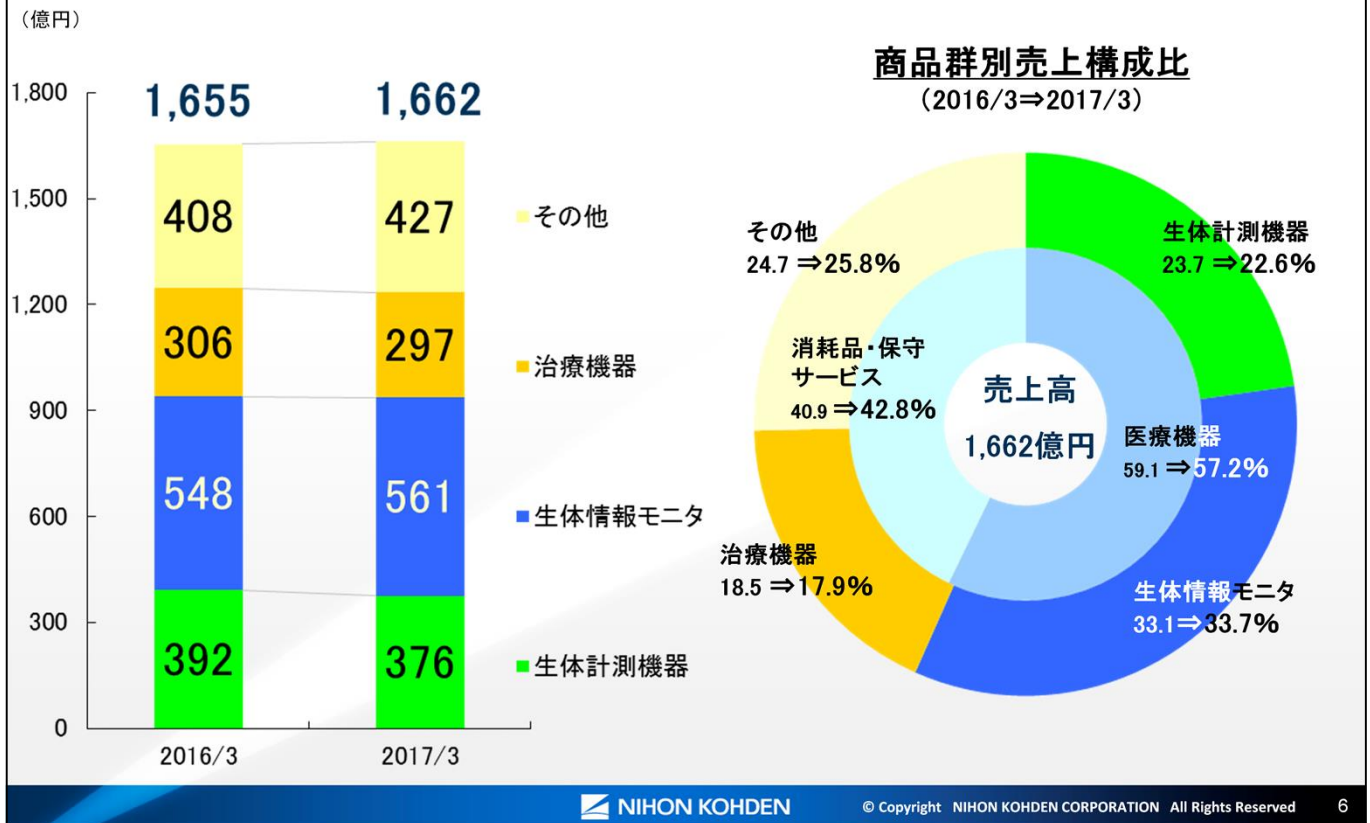
- 国内売上高は28億円増の1,247億円となりました。
- 急性期病院、中小病院、診療所といった、市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービスの拡大に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 市場別では、私立病院市場が好調に推移したほか、診療所市場も売上を大きく伸ばすことが出来ました。
- 大学、官公立病院市場は、厳しい経営環境を受けて設備投資の抑制や延期が見られ、前期を下回りました。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、円高の影響から、20億円減の415億円となりました。
- 米州は、5億円減の189億円、現地通貨ベースでは、6%増加となりました。米国は、現地通貨ベースでは生体情報モニタを中心に好調に推移しましたが、円ベースでは減収となりました。中南米は、販売組織再編に伴う商流変更の影響もあり、前期を下回りました。
- 欧州では、ドイツ、トルコが低調に推移し、11億円減の69億円となりました。現地通貨ベースでも、4%減少しています。
- アジア州は、12億円減の126億円、現地通貨ベースでは2%増加となりました。インドは好調に推移し、中国も現地通貨ベースでは堅調でしたが、一部の中東産油国が原油安の影響で低調に推移しました。
- その他地域では、アフリカ諸国での販路開拓が奏功し、エジプトで大口商談を獲得するなど、大きく伸びました。
- 海外売上高比率は25%となりました。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体計測機器、治療機器は前期を下回りましたが、主力の生体情報モニタを中心に伸ばすことが出来ました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスの割合では、国内外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合が42.8%へ増加し、安定収益につながっています。

5.1) 生体計測機器

	前期 2016/3	当期 2017/3	増減率(%)	(単位:百万円)
脳 神 経 系 群	8,200	7,372	△ 10.1	← 国内・海外ともに前期を下回る
心 電 計 群	7,163	6,620	△ 7.6	← 国内・海外ともに前期を下回る
心臓カテーテル検査装置群	11,254	12,330	9.6	← 【国内】電極カテーテルの売上が伸長
その他(診断情報システム等)※	12,599	11,334	△ 10.0	
生 体 計 測 機 器 合 計	39,218	37,658	△ 4.0	
う ち 国 内 売 上 高	29,944	29,748	△ 0.7	
う ち 海 外 売 上 高	9,274	7,910	△ 14.7	

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



神経機能検査装置
MEE-2000

New!



心電計 ECG-2450



臨床用ホリグラフ RMC-5000

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で4%減の376億円となりました。
- 国内では、心臓カテーテル検査装置群は好調に推移したものの、脳神経系群、心電計群、診断情報システムが前期を下回り、0.7%減の297億円となりました。
- 海外では、脳神経系群、心電計群ともに、全ての地域で前期を下回り、14.7%減の79億円となりました。

5.2) 生体情報モニタ

	前期 2016/3	当期 2017/3	増減率(%)	(単位: 百万円)
生体情報モニタ合計	54,823	56,117	2.4	
うち国内売上高	34,616	36,032	4.1	・送信機、医用テレメータ、ベッドサイドモニタが好調。 ・センサ類など消耗品も好調
うち海外売上高	20,207	20,084	△ 0.6	・その他地域での売上が大幅に伸長。米州も前期を上回る ・欧州、アジア州で前期を下回る



ベッドサイドモニタ
CSM-1901



医用テレメータ
WEP-5250シリーズ

New!



バイタルサインテレメータ
GZ-140P



SpO₂
プローブ



CO₂測定用
酸素マスク



心電図
電極

消耗品関連

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で2.4%増の561億円となりました。
- 国内では、送信機、医用テレメータ、ベッドサイドモニタが好調だったほか、センサ類などの消耗品も好調に推移し、4.1%増の360億円となりました。
- 海外では、その他地域が大きく伸び、米州も前期を上回ったものの、欧州、アジア州が前期を下回ったことから、0.6%減の200億円となりました。

5.3) 治療機器

	前期 2016/3	当期 2017/3	増減率(%)	(単位:百万円)
医科向け除細動器	5,670	5,109	△ 9.9	←国内・海外ともに前期を下回る
A E D	13,825	13,175	△ 4.7	←【国内】更新需要の鈍化により低調 【海外】アジア州、その他地域で好調。 米州、欧州で前期を下回る
ペースメーカー・ICD	2,914	3,111	6.7	
人工呼吸器	1,790	2,205	23.2	←【国内】販促活動が奏功。病院新設 に伴う新規受注も寄与
その他	6,410	6,127	△ 4.4	
治療機器合計	30,611	29,728	△ 2.9	
うち国内売上高	21,584	21,315	△ 1.2	
うち海外売上高	9,027	8,412	△ 6.8	
(参考)AED販売台数	87,500	84,700	△ 3.2	
うち国内販売台数	48,800	44,300	△ 9.2	



除細動器
TEC-5600シリーズ



AED
AED-3100



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
HAMILTON-C1

New!



CPRアシスト
CPR-1100

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で2.9%減の297億円となりました。
- 商品別では、医科向け除細動器は、国内外ともに前期を下回り、9.9%減の51億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で84,700台、売上は4.7%減の131億円となりました。国内は、更新需要の鈍化により低調に推移しました。海外は、アジア州、その他地域で好調に推移したものの、米州、欧州で前期を下回りました。
- 人工呼吸器、ペースメーカー・ICDは好調に推移しました。
- 地域別では、国内は1.2%減の213億円、海外は6.8%減の84億円となりました。

5.4) その他

(単位: 百万円)

	前期 2016/3	当期 2017/3	増減率(%)
検体検査装置	11,382	12,074	6.1
画像診断装置、 研究用機器他※	29,485	30,707	4.1
その他合計	40,868	42,781	4.7
うち国内売上高	35,843	37,668	5.1
うち海外売上高	5,024	5,112	1.8

【国内】私立病院、診療所市場が好調
 【海外】微減。米州、欧州で好調。アジア州で前期を下回る。新商品が寄与

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

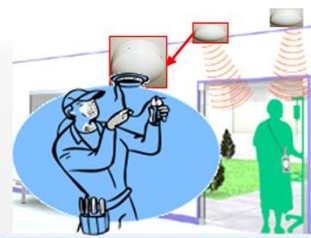
New!



全自動血球計数器
MEK-9100



臨床化学分析装置
CHM-4100



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で4.7%増の427億円となりました。
- 国内では、私立病院、診療所市場で検体検査装置が好調に推移し、仕入品も前期を上回ったことから、5.1%増の376億円となりました。
- 海外では、血球計数器は微減となりましたが、仕入品が増加したことから、1.8%増の51億円となりました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2016/3	当期末 2017/3	増減額	
流動資産	112,929	119,235	6,305	商品及び製品 2016/3 14,519 2017/3 17,061 増減 +2,541
固定資産	31,340	33,571	2,230	有形固定資産 2016/3 15,695 2017/3 20,148 増減 +4,453
資産合計	144,270	152,806	8,536	
流動負債	42,901	45,006	2,104	
固定負債	3,697	3,913	215	
負債合計	46,599	48,919	2,320	
純資産	97,671	103,887	6,215	
負債・純資産合計	144,270	152,806	8,536	

- 総資産は85億円増加し、1,528億円となっています。

7) キャッシュフロー

(単位:百万円)

	前期 2016/3	当期 2017/3	増減額
I 営業CF	10,765	11,356	591
II 投資CF	△ 7,802	△ 6,344	1,457
FCF	2,962	5,011	2,049
III 財務CF	△ 9,488	△ 3,517	5,970
換算差額	△ 304	△ 217	86
増減額	△ 6,829	1,277	8,106
期末残高	27,283	28,560	1,277

	2016/3	2017/3	増減
税金等調整前当期純利益	15,939	13,851	△2,087
仕入債務の増減額	△453	2,826	+3,279
投資有価証券の売却による収入	127	759	+631
有形固定資産の取得による支出	△6,898	△6,304	+594
自己株式の取得による支出	△6,438	△1	+6,437

- 期末残高は12億円増加し、285億円となっています。

8) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前期 2016/3	当期 2017/3			増減額 (年度比較)	次期計画 2018/3
		期初計画	前回計画※	実績		
設備投資額	6,678	10,000	9,000	7,710	1,032	5,700
減価償却費	3,459	4,000	3,400	3,422	△ 37	3,900
研究開発費	5,910	7,300	6,500	6,466	556	7,300

●設備投資の実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、西落合事業所改修工事
所沢 総合技術開発センタの建設34億円、朝霞 事業所の建設(免疫試薬部門の移転)7億円

●次期設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、西落合事業所改修工事10億円

※2016/11/4 第2四半期決算発表時の予想数値

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

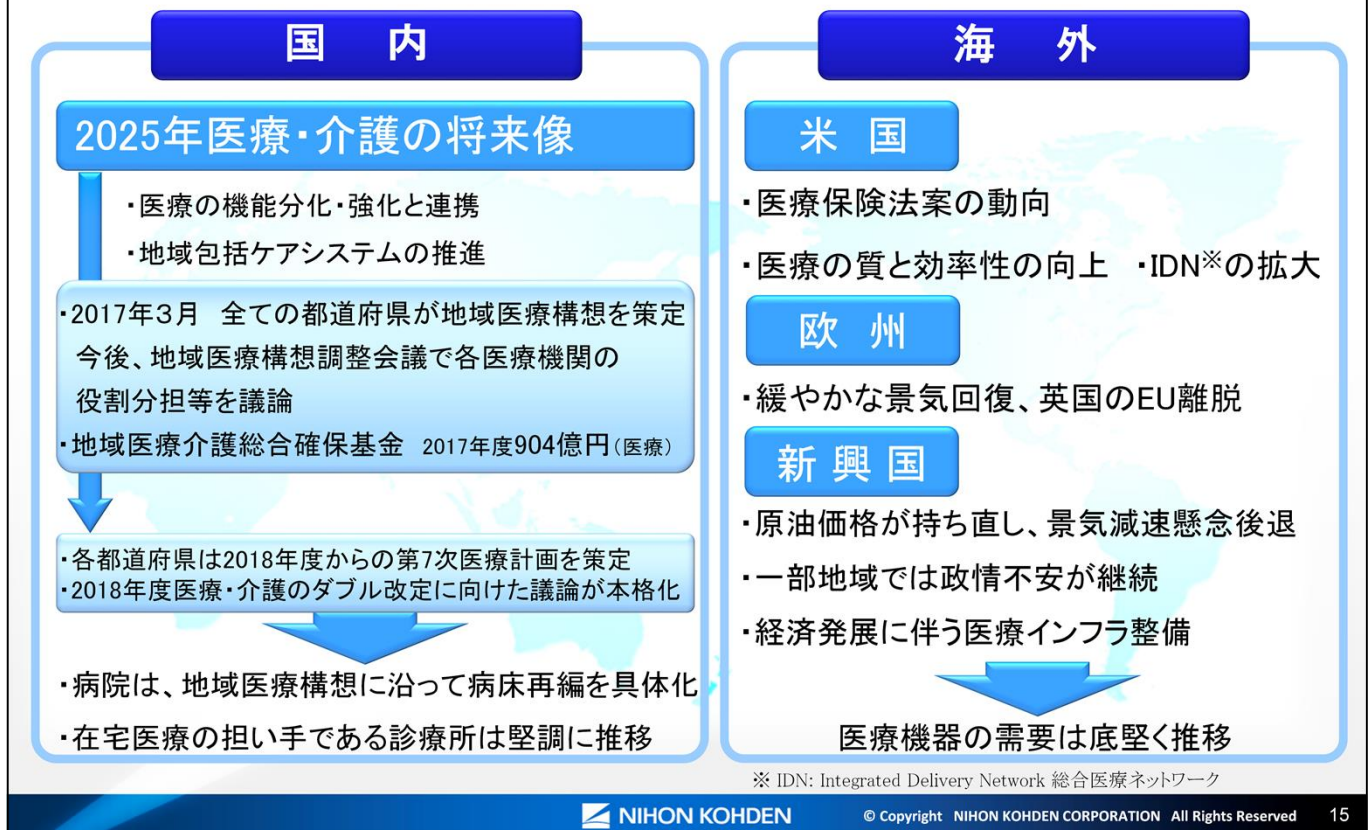
13

- 設備投資は、前期比10億円増の77億円となりました。計画との差異につきましては「型」投資の期ずれや新製品のデモ機を中心とした投資の見直しによるものです。
- 減価償却費は前期並みの34億円、研究開発費は前期比5億円増の64億円となりました。
- 次期の設備投資は、西落合事業所の改修工事費用10億円を含む、57億円を見込んでいます。
- 減価償却費は39億円、研究開発費は73億円を見込んでいます。
- 引き続き、生体情報モニタ、治療機器を中心に、自社製品のラインアップ拡充に努めてまいります。

2

次期業績見通し

1) 経営環境



- 国内では、2025年の医療と介護の将来像に向けて、医療制度改革が進められています。
- 3月までに、全ての都道府県が地域医療構想をまとめており、今後は、各医療機関の役割分担が検討されます。また、2018年度の診療報酬改定に向けた議論が本格化してまいります。
- 病院では、地域医療構想に沿って病床再編が進む一方、診療所市場は堅調に推移すると考えています。
- 海外につきましては、米国では、医療保険法案の動向が注視される一方、医療の質と効率性の向上や、IDNの拡大が進んでいます。
- 欧州では、緩やかに景気が回復していますが、英国のEU離脱問題の影響が懸念されます。
- 新興国では、原油価格が持ち直し、景気減速の懸念が後退しています。一部地域では政情不安が続いていますが、経済発展に伴う医療インフラ整備は進むと予想されます。
- 海外の医療機器の需要は、総じて底堅く推移すると見えています。

2) 次期業績見通し

(単位:百万円)

	当期実績 2017/3	次期予想 2018/3	増減率 (%)
売上高	166,285	175,000	5.2
国内売上高	124,764	128,000	2.6
海外売上高	41,520	47,000	13.2
営業利益	13,585	15,000	10.4
経常利益	14,053	15,000	6.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,149	10,200	11.5
海外売上高比率	25.0%	26.9%	
平均レート			
1ドル	109.2円	110円	
1ユーロ	119.3円	115円	

← 為替影響除く: +14%

【地域別海外売上高】

	当期実績 2017/3	次期予想 2018/3	増減率(%)
米州	18,953	22,500	18.7
欧州	6,988	7,500	7.3
アジア州	12,639	14,400	13.9
その他	2,938	2,600	△ 11.5
海外計	41,520	47,000	13.2

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

16

- 以上の市場環境を踏まえ、次期の業績見通しにつきましては、連結売上高は5.2%増の1,750億円、国内売上高は2.6%増の1,280億円、海外売上高は13.2%増の470億円を見込んでいます。地域別では特に、米州、アジア州に注力します。
- 営業利益につきましては、10.4%増の150億円を見込んでいます。
- 為替の前提は、ドルが110円、ユーロは115円です。

3) 次期業績見通しの要因分析

【売上高】

(単位:億円)



【営業利益】

(単位:億円)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

17

- 国内売上高は、病院・診療所向けは31億円、AEDは2億円増加する見込みです。AEDの販売台数は、46,000台を見込んでいます。
- 大学、官公立病院市場では設備投資の抑制が見られますが、消耗品・保守サービス事業に注力するとともに、診療所市場での売上拡大に取り組めます。また、高齢化に伴い患者数が増加傾向にある循環器領域や地域医療連携に対応した製品・サービスの拡充に努めてまいります。
- 海外売上高は、57億円の実質増、為替は2億円のマイナス影響を見込んでいます。
- 営業利益につきましては、減価償却費・研究開発費が13億円増加、人件費・経費が29億円増加する見込みです。
- 為替の影響は小さく、増収と粗利率改善による効果は57億円と見込んでいます。

[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	当期実績	次期予想	構成比(%)	増減率(%)
	2017/3	2018/3		
生体計測機器	37,658	39,800	22.7	5.7
生体情報モニタ	56,117	59,100	33.8	5.3
治療機器	29,728	31,200	17.8	5.0
その他	42,781	44,900	25.7	5.0
売上高合計	166,285	175,000	100.0	5.2
(ご参考)				
消耗品・保守サービス	71,180	75,100	42.9	5.5

- 商品群別の売上高見通しについては、全ての商品群で増収を目指すとともに、安定収益につながる消耗品・保守サービス事業の取り組みを強化してまいります。

3

前中期経営計画の総括

Strong Growth 2017の成果

成長を確実にするための基盤固め

海外事業基盤の強化

- ・販売拠点設立 
- ・現地マネジメント層の登用 

開発拠点の整備

- ・総合技術開発センタの建設 
- ・米国開発拠点設立 

国内生産体制の再編

- ・富岡生産センタの稼働
- ・富岡第二工場は消耗品生産に移行 

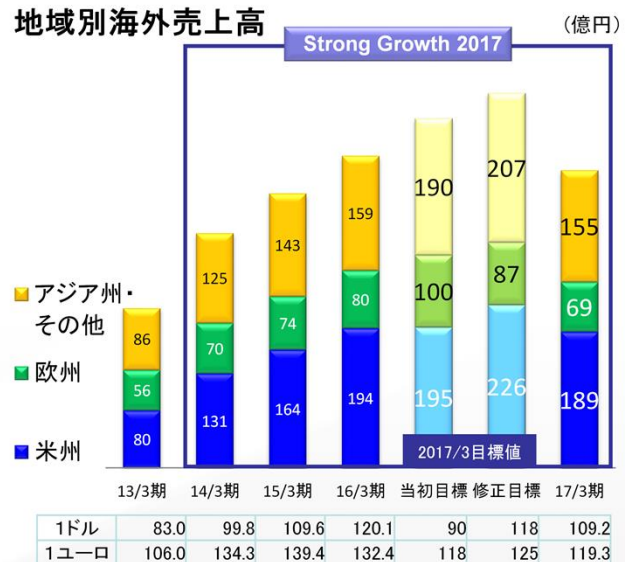


ガバナンスの強化

- ・監査等委員会設置会社への移行
- ・独立社外取締役4名の選任
- ・指名・報酬委員会の設置

- 前中期経営計画「Strong Growth 2017」では、成長を確実にするための基盤固めに取り組みました。
- 海外では、販売拠点を設立するとともに、現地マネジメント層を登用し、事業基盤の強化に努めました。
- 国内では、富岡生産センタを稼働させ、富岡第二工場で消耗品の生産を開始するなど、生産体制の再編を進めました。
- 開発面では、総合技術開発センタを建設し、米国に開発拠点を設立しました。
- コーポレート・ガバナンス強化の一環として、監査等委員会設置会社に移行するとともに、独立社外取締役4名を選任いたしました。

Strong Growth 2017の定量評価-売上



修正目標未達の要因	外部環境要因	当社要因
国内	- 医療制度改革の進展 - 急性期病院の経営環境悪化	市場環境をとらえた販売体制、製品開発に課題
海外	- 円高による換算目減り - 一部新興国の市場環境悪化	- 新興国での短納期商談への迅速な対応に課題 - 西欧市場でのプレゼンス向上に課題

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 修正目標と実績の差異は、ご覧のとおりです。
- 国内につきましては、医療制度改革の進展に伴い、急性期病院の経営環境の悪化が影響しました。また、市場環境を捉えた販売体制や製品開発に課題があり、当初目標は上回ったものの、修正目標には届きませんでした。
- 海外につきましては、円高による目減りや一部新興国での市場環境の悪化が影響しました。また、新興国での短納期商談への対応や、西欧市場でのプレゼンス向上に課題が残り、目標を下回りました。

Strong Growth 2017の定量評価－利益



	外部環境要因	当社要因
修正目標未達の要因	- 割引率変更等による退職給付費用増 - 円高による換算目減り	- 売上高未達 - 売上構成の変化による売上原価率の上昇 - 先行投資負担 ・研究開発投資 ・海外販売・サービス体制の強化

- 利益面では、退職給付費用の増加や円高による換算目減りが影響しました。
- 売上高の未達に加え、売上構成の変化から原価率が上昇しました。研究開発や海外の販売・サービス体制強化などの先行投資もかさみ、目標を下回りました。

次期中期経営計画に向けた課題

Strong Growth 2017 基盤固めが完了



収益力の改善



経営の
「グローバル化」



海外事業の
さらなる成長



新規事業の創造

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

23

- 「Strong Growth 2017」では、将来の成長に向けた基盤固めが完了したものの「収益力の改善」、「海外事業のさらなる成長」、「経営のグローバル化」、「新規事業の創造」が課題として残りました。

4

中期経営計画 TRANSFORM 2020

- 前中期経営計画の成果と課題を踏まえ、新中期経営計画「TRANSFORM 2020」を策定しましたので、その方針について、ご説明します。

TRANSFORM 2020 の基本方針

高収益体質への変革



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

25

- 「TRANSFORM 2020」では、高収益体質への変革を目指します。
- 当社のコア技術である「ヒューマン・マシン・インターフェース」をさらに強化し、医療現場の課題解決につながる3つの顧客価値を創造、提供し続けることで、収益力の向上を図ります。

TRANSFORM 2020 の基本方針

1

高い顧客価値の創造

当社の
強み

センサ技術、データ解析
技術などの独自技術

顧客価値の高い
自社製品の
開発・販売



・競争優位性の高い
センサ等消耗品



・医療の効率化、患者安全
に貢献するサービス

消耗品・保守サービス
売上高比率目標45%

専門性の高い
グローバル
販売・サービス
体制の構築

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

26

- 基本方針の1つ目は「高い顧客価値の創造」です。
- 当社の強みである独自技術を最大限に活用し、顧客価値の高い自社製品の開発・販売に注力します。
- 消耗品の競争優位性を高めるとともに、医療安全と効率化に貢献するサービスを拡充することで、消耗品・保守サービスの売上高比率45%を目指します。
- 専門性の高いグローバルな販売・サービス体制を構築することで、顧客満足度の向上を図ります。

TRANSFORM 2020 の基本方針

2

組織的な生産性の向上

富岡生産センタ

- 生産改革を推進



- グループ最適なグローバル・サプライチェーンの構築

- 生産性の向上
- 世界各国へのタイムリーな製品供給

総合技術開発センタ

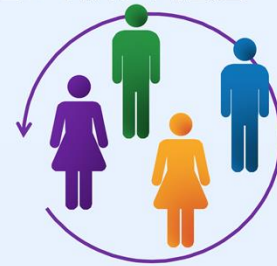
- 充実した研究開発・試験環境の活用
- プロセス管理、品質管理、生産技術による支援体制の強化



開発効率の向上

グループ全体

業務プロセス改革とIT利用の推進



社員一人ひとりの生産性の向上

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 基本方針の2つ目は「組織的な生産性の向上」です。
- 富岡生産センタを中心に生産改革を推進するとともに、グループ最適なグローバル・サプライチェーンを構築し、生産性の向上とタイムリーな商品供給を目指します。
- 総合技術開発センタでは、充実した研究開発・試験環境を最大限に活用するとともに、プロセス管理、品質管理、生産技術による支援体制を強化し、開発効率の向上を図ります。
- グループ全体では、業務プロセス改革とIT利用を推進し、社員一人ひとりの生産性向上を目指します。

6つの重要課題

地域別事業
展開の強化

コア事業の
さらなる成長

新規事業の
創造

技術開発力の強化

世界トップクオリティの追求

企業体質の強化

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

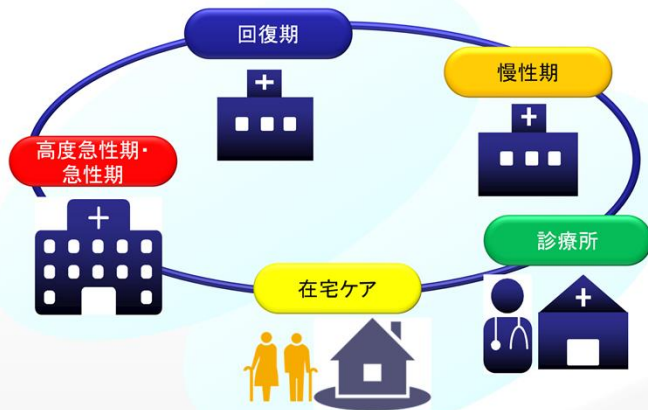
- これらの基本方針のもと、6つの重要課題に取り組めます。
- この中から、「地域別事業展開の強化」および「コア事業のさらなる成長」についてご説明します。

地域別事業展開の強化

日本

高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築

✓ 病院経営の改善に貢献するソリューションの提供



✓ 地域医療連携に対応した商品ポートフォリオの拡充

LAVITA®

遠隔医療支援システム (2017年度発売予定)



SUKOYAKA®

ひとり暮らし高齢者向け健康まもりサービス



✓ 販売・サービス体制の強化・再編

病院営業

GP※営業

※GP: General Practitioner
総合診療医

販売子会社制 ▶ 支社・支店制への移行

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

29

- 地域別では、国内での持続的成長、海外での飛躍的成長を実現するため、日本、先進国、新興国での事業展開を強化します。
- 日本では、高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築に取り組みます。
- 病院経営の改善に貢献するソリューションを提供するとともに、生体情報モニタや人工呼吸器などの新製品開発に注力します。
- 販売・サービス体制につきましては、病院のグループ化や全国的な共同購入などの市場変化に機動的に対応するため、4月に販売子会社制から支社支店制に移行しました。
- 地域医療連携に対応した商品として、遠隔医療支援システムを発売する予定です。

アメリカ

世界最大・最先端のアメリカでの事業基盤の強化

✓ 医療の質と効率の向上に貢献
するソリューションの提供

✓ 市場ニーズへの迅速な対応、
高い顧客満足を実現とする
開発・販売・サービス体制の構築



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

30

- 世界最大・最先端のアメリカ市場では、引き続き事業基盤の強化に取り組めます。
- 医療の質と効率の向上に貢献できるソリューションを提供するため、「生体情報モニタ」「脳神経系群」「救命救急分野」、3事業の連携を図ります。また、新市場へ進出するために、商品群の拡充や戦略的M&Aを推進します。生体情報モニタでは、市場シェア12%の獲得を目指します。
- 市場ニーズへ迅速に対応し、高い顧客満足を実現するために、開発・販売・サービス体制の構築を進めてまいります。生体情報モニタリング事業の拡大に向けて、NKUSラボの体制を強化するほか、東海岸オフィスにおけるトレーニングや技術サポートの充実を図ります。

✓ 中国開発・生産体制の増強

ボリュームゾーン市場向け
製品ラインアップの拡充



日本光電
ミドルイースト

日本光電コリア

上海光電

日本光電
インド

NKSバンコク

日本光電マレーシア

日本光電
シンガポール

日本光電
メキシコ

日本光電
ラテンアメリカ

日本光電
ブラジル

✓ インド、東南アジア、中南米市場における 現地生産化の推進、サービス体制の増強

- 新興国市場では、各地域の医療ニーズに応えるため、戦略的な事業展開を進めてまいります。
- 中国では、開発・生産体制をさらに増強し、新興国のボリュームゾーン市場に向けた製品ラインアップを拡充する予定です。
- また、インド、東南アジア、中南米市場において、現地生産を推進するとともに、サービス体制のさらなる増強を図ってまいります。

コア事業のさらなる成長



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

32

- 「コア事業のさらなる成長」についてですが、当社は、センサ技術を中心に、5つの事業領域に展開しています。
- 「生体情報モニタリング事業」および「治療機器事業」について、ご説明します。

生体情報モニタリング事業

- ✓ 医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するモニタリングソリューションの提供
- ✓ 地域別ニーズに応えるグローバルな開発体制の構築
- ✓ ワイヤレス技術を活用した大規模ネットワークシステムへの対応

今後の商品展開(予定)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

33

- 生体情報モニタリング事業では、医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するソリューションを提供してまいります。
- グローバルな開発体制を構築するとともに、近年、アメリカ市場において増加している大規模ネットワークシステムへの対応に注力します。
- 新商品としては、病院内向けでは、一般病棟や回復期病棟、急性期向けのモニタを現在開発しています。4月には、当社独自の血圧測定方式であるiNIBPを搭載した送信機を発売しました。臨床情報システムや無線LAN対応、マルチガスモジュールの開発にも取り組んでいます。今後は、リモートサービスや在宅モニタリングに向けた取り組みも手がけてまいります。

治療機器事業

✓ 除細動器・AED市場におけるリーダーポジションの確立

救急蘇生ケアサイクルの改善に貢献する独自技術とソリューションの開発



✓ 人工呼吸器、麻酔器事業の早期立ち上げ、グローバルな事業展開の推進

独自技術を活用した
先端的な人工呼吸器、
麻酔器の開発

		発売目標
国内向け人工呼吸器	総合技術開発センターで開発中	2018年度
新興国向け人工呼吸器	米開発拠点オレンジメッドで開発中	2019年度
麻酔器	アコマ社と共同開発中	2018年度

- 治療機器事業では、除細動器・AED市場において、リーダーポジションの確立を目指します。救急蘇生のケアサイクルの改善に貢献できるよう、独自技術とソリューションの開発に取り組みます。新商品は、ホームAEDや救急車搭載の除細動器、デフィブテックの商品群の拡充を予定しています。
- 人工呼吸器、麻酔器事業を早期に立ち上げ、グローバルな事業展開を推進してまいります。現在、独自のセンサ技術やデータ解析技術を活用した開発に取り組んでおり、2018年度には国内向け人工呼吸器と麻酔器、2019年度には新興国向け人工呼吸器の発売を予定しています。

経営目標値(2020年3月期)

売上高	1,900億円		
国内売上高	1,350億円		
海外売上高	550億円	地域別海外売上高	
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.5%)	米州	273億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	137億円	欧州	82億円
ROE	12.0%	アジア州	165億円
		その他	30億円

想定レート: 1USD=110円、1EUR=115円

- 「TRANSFORM 2020」の経営目標値につきましては、2020年3月期に、連結売上高1,900億円、国内売上高1,350億円、海外売上高550億円を目指してまいります。海外の地域別は、ご覧のとおりです。
- 営業利益は200億円、純利益は137億円、ROEは12%を目指します。
- 為替の前提は、ドルが110円、ユーロは115円です。

利益配分の基本方針

成長投資

将来の企業成長に必要な投資を継続

研究開発

設備投資

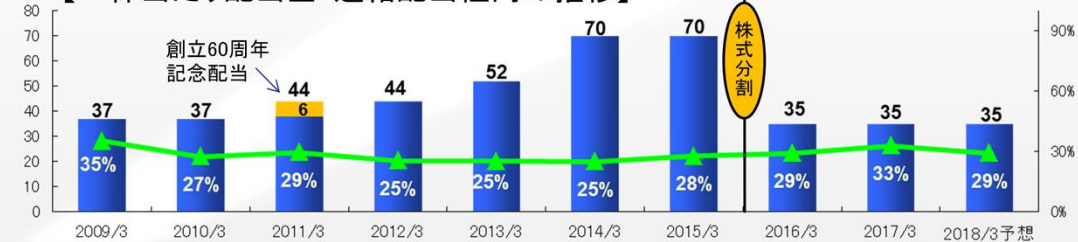
M&A、提携

人財育成

株主還元

- ✓ 長期にわたって安定的な配当を継続
- ✓ **連結配当性向30%以上を目標**
- ✓ 配当を重視し、自己株式の取得は機動的に検討

(円) 【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



注) 2015年4月1日を効力発生日として株式1株につき2株の株式分割を実施
2015年3月期までの数値は、株式分割前の実際の配当金の額を記載

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

36

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としており、配当性向は30%以上を目標としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、自己株式の取得につきましては機動的に検討します。
- 次期の年間配当金は35円、配当性向は29%の予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部

【連絡先】TEL03-5996-8003



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「TRANSFORM 2020」では、長期ビジョンの最終ステージであるとともに、2020年以降の長期的・持続的成長を実現するための重要な転換点と位置づけています。
- 市場環境の変化などを踏まえ、2020年3月期の業績目標は見直しますが、「TRANSFORM 2020」の基本方針のもと、6つの重要課題を着実に推進し、経営目標値の達成を目指します。